作業基準
(人の輸送をする貨物定期航路事業用)

平成 22 年 12 月 1 日
琉球海運株式会社

目 次

第 1 章	目的
第 2 章	作業体制
第 3 章	危険物等の取扱い
第 4 章	乗下船作業
第 5 章	旅客の遵守事項等の周知

作業基準

第1章 目的

(目的)

第1条 この基準は、安全管理規程に基づき、那覇～宮古～石垣、那覇～石垣～宮古、那覇～宮古、那覇～石垣の作業に関する基準を明確にし、もって輸送に関する作業の安全を確保することを目的としている。

第2章 作業体制

(作業体制)

第2条 陸上作業員及び船内作業員の配置は、次の区分による。

(1) 陸上作業

① 乗下船する乗客の誘導 旅客係員（1人）

(2) 船内作業

① 乗下船する乗客の誘導 旅客係員（1人）

2 乗組員以外の者が、船内で作業に従事する場合は、船内作業指揮者の指揮を受けるものとする。

(旅客係員の所掌)

第3条 陸上旅客係員は、運航管理者又は運航管理補助者の命を受け、陸上における次の作業を実施する。

(1) 乗下船する旅客の誘導

(2) その他旅客の乗下船に関する作業

第4条 船内旅客係員は、船長の命を受け、船舶上における次の作業を行う。

(1) 旅客の乗下船時の誘導

(2) その他旅客の乗下船に関する作業

第3章 危険物等の取扱い

(危険物等の取扱い)

第5条 危険物の取扱いは、運航管理者の指示に従い、危険物船舶運送及び貯蔵規則等関係法令の定めるところにより行うものとする。

2 刀剣、銃器、その他旅客の安全に害するおそれのある物品の取扱いについては、運航管理者の指示に従い、運送を拒絶するか又は一定の条件をつけて運送を引き受けるものとする。ただし、原則として船室に持ち込むことは拒絶しなければならない。

3 陸上作業指揮者又は船内作業指揮者は、旅客の手荷物及び小荷物、その他の物品

が前2項の危険物等に該当するおそれがあると認めるときは、運航管理者又は船長の指示を受けて旅客の立会いのもとに点検し必要な措置を講ずるものとする。

4 船長及び陸上作業指揮者は前3項の措置を講じたときは、その状況を運航管理者に報告するものとする。

第4章 乗下船作業

(乗船待ちの旅客)

第6条 陸上の旅客係員は、乗船待ちの旅客等が船舶の離着舷作業、荷役作業により危害を受けないよう、旅客に指示する。

(乗船準備作業)

第7条 陸上及び船内の旅客係員は、旅客の乗船に関し十分な打ち合わせを行い、各作業員に乗船作業開始時刻を周知する。原則として、旅客については離岸1時間前から乗船作業を開始する。

第8条 船内の旅客係員は、安全を確認後、陸上の旅客係員に乗船を開始するよう指示する。

第9条 陸上の旅客係員は、旅客を乗船口に誘導する。

2 陸上又は船内の旅客係員は、旅客を乗船口から船内へ誘導する。

3 陸上及び船内の旅客係員は、乗船旅客数を把握し、旅客定員を超えていないことを確認する。

(乗船の終了)

第10条 船内旅客係員は、旅客の乗船が終了したときは、乗船旅客数を速やかに船長に報告する。

(係留中の保安)

第11条 船長及び運航管理者又は運航管理補助者は、係留中、旅客の安全に支障がないよう係留方法、ランプウェイの保安に十分留意する。

(下船準備作業)

第12条 船長は、船体が完全に着岸したことを確認した後、船内旅客係員に下船のために必要な作業の開始を指示する。

(旅客の下船)

第13条 船内の旅客係員は、旅客の通路の設置を確認した後、旅客を誘導して下船させる。

(下船の終了)

第14条 陸上及び船内の旅客係員は、旅客の下船が完了したときは、その旨及び異常の有無を、それぞれ運航管理者又は運航管理補助者及び船長に報告する。

第5章 旅客の遵守事項等の周知

(乗船待ち旅客に対する遵守事項等の周知)

第15条 運航管理者は、乗船の申込があったときに旅客の遵守すべき事項を明確にしなければならぬ。

- (1) 旅客は、乗下船時、係員の誘導に従うこと。
- (2) 船内においては、船長その他の乗組員の指示に従うこと。
- (3) 船内においては、他人に危害を加えるような行為又は迷惑をかける行為をしないこと。

(乗船旅客に対する遵守事項等の周知)

第16条 船長は、船内の旅客が見やすい場所に次の事項を掲示しなければならない。

- (1) 旅客の禁止事項
- (2) 救命胴衣の格納場所及び着用方法
- (3) 非常の際の避難要領（非常信号、避難経路等）
- (4) 病気、盗難等が発生した場合の乗組員への通知
- (5) その他旅客の遵守すべき事項
 - ① 下船及び非常の際には、係員の指示に従うこと。
 - ② 航海中、許可なく貨物区域に立入らないこと。